

<算数・数学>指導のポイント

「指導と評価の一体化」(指導と評価の計画)

学習指導要領は、基礎的・基本的な知識技能の習得と思考力、判断力、表現力等をバランスよく育てることを重視しています。このバランスのとれた学力を育成するためには、学習指導の改善を進めると同時に、学習評価を各観点ごとにバランスよく【実施する】ことが大切です。

学習指導案の「指導と評価の計画」に「◎」「○」を明記しましょう。

授業中は活発に活動していたのに定着していない。とならないように！

「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料(国立教育政策研究所)」や「福島県版 生きる力をはぐくむ学習評価指導事例集(福島県教育委員会)」では、「◎」「○」について以下のように区別して評価の充実のため工夫することが記載されています。

- 「◎」…単元における総括の資料とするための評価とし、全児童生徒の記録を取るもの。
- 「○」…学習指導の過程における評価を中心とし、全児童生徒の記録を取ることを前提としないもの。学習への取組の様子、ノートの記述などを通して「◎」の評価や単元の総括をする際に参考となる資料が得られることがあるので、必要に応じて児童生徒の学習状況を記録しておくことも大切である。

<形式の例>

「福島県版 生きる力をはぐくむ学習評価指導事例集(福島県教育委員会)」p41
中学校第1学年 「比例と反比例」
指導と評価計画 より一部抜粋
※ 義務教育課のHPよりダウンロードできます。

指導と評価の計画

学習活動	学習活動に即した評価規準 (評価方法)			
	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解
1 関数(2時間) 2 比例(7時間) 3 反比例(5時間)	※ 評価規準は省略			
①反比例する量 長方形の縦と横の長さの関係や変化の特徴を調べる。	◎2つの数量の関係に関心をもち、その関係の変化や対応の様子を捉えようとして、式で表したりしようとしている。(観察、ノート)	○具体的な事象の中の2つの数量の関係を、値の変化や対応の様子に着目して調べたり、式で表したりして、2つの数量が反比例の関係にある事象を見いだすことができる。(観察、ノート)		
②反比例する量 x の変域や比例定数が負になる反比例について、表や式で表す。			◎反比例の関係を、表や式に表すことができる。(小テスト)	◎反比例の意味、比例定数の意味を理解している。(小テスト)

上記の下線の【実施する】について、具体的に評価の記録を取ることで、評価を確かなものとし、個に応じた指導の手立てができるとともに、授業の改善に生かれます。

「◎」についての適用、評価問題を授業に位置づけましょう。
「できたか」「わかったか」をしっかり評価しましょう。

「◎」を意識することで、単元の段階ごとに、児童生徒に身につけさせたい力がより明確になります。



(以下省略)

- ◇ 学校によって、児童生徒の実態に応じて、指導時数に軽重を付けたり、「教えること」「考えさせること」「活動させること」「習熟させること」を明記したりと、工夫が見られます。
- ◇ 指導と評価の一体化の第一歩は、「指導と評価の計画」の工夫から考えることが大切です。